

2023. 9 月

女性チャレンジ応援拠点だより



コラム

「あなたの創造性を拓く」

9月になりました。イベントや行事の多い時期に入ります。遊びと学びのさまざまな催しが各地で開催されます。実施する側も、参加する側も、実りの多い秋にしたいものです。

さて今月の『AI 実用元年、際立つ〈あなたならではの〉の想い、チャレンジ』は、今年の実りを糧に来年また少しステップアップできるよう、「あなたの創造性を拓く」をテーマに考えたいと思います。

2015年12月、「野村総研」と英オックスフォード大学の共同研究の成果が公表されました。AIにとって代わる日本の職業の確率を試算したもので、結果は「日本の労働人口の約半分はAIやロボットに代替可能」。半分とは驚きですが、この研究で確認されたこともあります。それは、「創造性、協調性が必要な業務や、非定型な業務は、将来においても人が担う」。ちなみに、ここでは「創造性が必要な業務」について、「抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業」と説明しています。

1989年にBBCで『The keys to creativity』という番組が放送されたそうです。その内容を二人の科学ジャーナリストがまとめ、書籍化、日本では1991年に『創造性を拓く』（早川書房）の邦題で出版されました。様々な分野の専門家や芸術家にインタビューしながら「創造性」を紐解いています。

この本の「創造性とは何か」について書かれた箇所には次の一文があります。「創造性と創造的思考は開発し、磨くことができる技術である」。そして、創造的と評価された人々の声の中に、「鍛錬と自己批判も重要である。青天の霹靂を待ってはいけない、勤勉さが必要である。

わずかな知識は無いよりマシだが、豊富な知識が何にもまして大切だ」。

あなたの創造性、つまり独創性を、どう開発し、磨いていきましょうか。模倣は、短期的には利益をもたらすかもしれませんが、中長期的には評判を下げ、結局存在感が薄くなり、信頼も得られません。独創性はよりよい活動・事業の要なのです。とはいえ、「一日にして成らず」。

やはり習慣ということになるでしょうか。世界の著名な経営者に朝型が多いのはよく知られています。そういえば、早朝の独り時間が人生を変えるといった本も最近出版されていました。その独り時間をどう使うか。運動、勉強、読書、日記、瞑想、その他さまざま、十人十色。自分に合ったコトと方法を習慣にしているから、独創性につながるのです。

朝型でなくても、自分に向き合う時間を持つことが大事なのでしょう。今年成績好調の野球選手がその要因をインタビューでたずねられて、「ノートを書くようになったこと」と答えていました。自分に合った習慣がわからなければ、まずは他者のものを試してみるのも一考です。

このテーマは奥深いのですが、紙面に限りもありませんので、あとはみなさん個々人でさらに考えていただくとして、みなさんが自身のチャレンジに情熱をかため、真剣にのぞめば、その道のりがそのまま創造性を拓くプロセスにもなり、可能性が広がります。「女性チャレンジ応援拠点」は、みなさんのチャレンジに可能性が広がるよう、スタッフ一同努めています。みなさんのご利用をお待ちしております。

女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4 階
電話&ファックス：06-7659-9640
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp
運営：大阪市立男女共同参画センター中央館
(電話 06-6770-7200 FAX 06-6770-7705)

※開室日

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休室

火	水	木	金	土
10:30 ? 12:30	18:00 ? 20:00	13:00 ? 15:00	10:30 ? 12:30	13:00 ? 15:00

※開室時間内は自由に出入りいただけます。
お気軽にお立ち寄りください。

